

委員会 レポート

委員会活動として、閉会中に行った所管事務調査の結果内容を、各委員会は第6回定例会において、次のとおり報告しました。

総務文教常任委員会 調査報告

防災対応について

【美瑛町の取組み】

美瑛町は地域防災計画を昭和44年に策定、その後、全部修正と一部修正を行っており、現在は、災害時要援護者対策及び風水害対策について見直し中とのことであった。

デジタル化、電波が弱く山間部に電波を送るには中間施設の設置が必要のため、運用はアナログとデジタルを併用していた。

【北広島市の取組み】

北広島市の地域防災計画は、修正後10年を経過したため、一般的な見直しを行い、「一般災害対策編」「地震災害

対策編」「資料編」の3編構成とし、要所の修正を行い改訂版としてまとめられていた。

主な修正項目では、警戒配備体制の見直し、要援護者対策の充実、避難勧告・指示基準の明確化、避難所におけるプライバシーの確保等があげられていた。

また、災害用備蓄資材は東日本大震災を教訓に、防寒用品の増量、リース会社から発電機借用が計画されていた。



防災対策について北広島市を視察

【まとめ】

地域防災計画の見直しは、一部修正といっても新たに計画を策定するのと同様の作業量となるので、事前に準備を行い、計画的に進める必要がある。

防災無線のデジタル化は、機器更新以外に、難聴エリアを事前に調査する必要があり、また、中継施設の有無により、整備費用にも影響が生じてくる。

産業厚生常任委員会 調査報告

観光振興について

【フラノ・マルシェ(富良野市)】
富良野市商工会議所及びふるのまちづくり株式会社を中心となり、市中心部の賑わい復活に向けた中核施設「フラノ・マルシェ」構想を平成20年にまとめた。

行政に頼ることなく民間主導で取り組んでいる、ふるのまちづくり株式会社は、地域から賛同を得て増資し、オール富良野でのまちづくり会社として体制強化が図られている。平成22年4月にオープンした同施設には、農産物直売所、スイーツカフェ、土産物店等を配置、また、観光・商店街に関するインフォメーションセンター機能も備えており、施設に立ち寄った観光客を回遊させ、中心市街地にも賑わいを波及させている。

【くるるの杜(北広島市)】
くるるの杜は、ホクレンが平成22年7月に開設した。農場及び調理加工の体験施設、農畜産物直売所、レストランと複合的施設で構成され、生産から消費までのプロセスを体験できる。

消費者に農業体験等を通じて、食と農のつながりを実感してもらえ、賑わい場となっていた。

東日本大震災以降、防災意識が高まっており、日々啓発を行い、繰り返し意識づけすることが、災害時の被害を最小に抑えることにつながる。また、事前準備が重要である。また、中継施設の有無により、整備費用にも影響が生じてくる。



フラノ・マルシェの取組みを視察

今後、各団体が取り組んできた実績と課題をお互い共有することが重要であり、協議体制の構築を早急に検討すべきと考える。